

## 奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際(3)

—大正元年度貳組保育日誌を中心に—

高月 教恵\*

幼児教育学科

(2005年11月9日受理)

大正元年度奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の内容としては、入園（開園）当初の11月は躰に重きをおきながら躰方と保育4課目を中心に、12月以降は保育4課目（遊戯、唱歌、談話、手技）を中心に各課目の個々の事項の充実重点をおきながら、教師が中心となって画一的に指導されていた様子が見られる。とりわけ、保育4課目の中でも手技に重きが置かれていたようである。東京女子高等師範学校附属幼稚園のように、自由遊びは保育の内容として位置づけられるほどには重要視されていなかったようであるが、課せられた事項の中で子どもの自由（自己活動）を尊重していた様子が見られる。

(キーワード) 躰方、保育4課目、手技、自由（自己活動）

## はじめに

筆者は、先の研究<sup>1)</sup>で、昭和13年度奈良女子高等師範学校（以下、奈良女高師）附属幼稚園の保育の実際について、「昭和13年度四之組保育日誌」を中心に考察した。その結果、保育の内容としては、保育6課目を基盤として自由遊び・会集・行事等の保育要目と、諸注意及び反省・練習事項・国家的事項の訓練要目を柱立てに、保育が行われていた様子が見える。主に、日々の保育では、保育6課目の個々の充実重点をおきながら、教師が中心となって画一的に指導されていた様子が見られる。さらに保育6課目については、課目の複合的な取り扱いや、一題材の各課目の視点からの取り扱いや、植物の成長や行事にしたがっての一連の流れが見られる。この活動の流れは、各課目の充実をはかりながらの季節や行事等に添っての一連の流れと考えられ、倉橋惣三の誘導保育と言うよりも、課程保育重視の保育と考えられる。

さらに、昭和18年度奈良女高師附属幼稚園の保

育の実際について、「昭和18年度四之組保育日誌」を中心に考察した<sup>2)</sup>。その結果、保育の内容としては、昭和13年度での保育6課目（遊戯・唱歌・談話・手技・観察・図画）が保育5項目（遊戯・音楽・談話・手技・観察）と改められ、保育5項目を基盤として、自由遊び、会集、行事、生活訓練に関するもの等が行われていた様子が見られる。当時の社会的背景から、保育の内容においても、戦時色の濃さを感じられ、訓練的・画一的に保育されていた様子も見られる。特に会集では、画一的・訓練的な様子が見られる。昭和13年度と同様に、項目の複合的な取り扱いや、一題材の各項目の視点からの取り扱いや、植物の成長や行事にしたがっての一連の流れが見られるが、取り上げられた題材は、昭和13年度に比べて少なくなっている。昭和13年度には、ほぼ毎日2課目の課程保育をしていたことから考えると、会集の時間が長くなったためと考えられる。警戒警報が発令されると、入園当初は休園になっていたが、それ以後は、警戒警報が発令されても、通常どおり保育が行われていた様子が見られる。

\*連絡先：高月教恵 幼児教育学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

る。しかし、自由遊びでは、子どもの自発性や主体性が尊重されていた様子も見られ、なによりも、子ども達が幼稚園で楽しんで活動していた様子が伝わってくる。

本稿では、開園当時に遡り、大正元年奈良女高師附属幼稚園ではどのような保育が行われていたのかを、現存している「大正元年保育案貳組」の保育日誌から読み取り考察する。「大正元年保育案貳組」の日誌は、大正2年3月24日終了式、4月1日始業式と日誌が続いていることから、2年保育年少組のものであると考えられる。

### 1. 大正元年の当園の状況

奈良女子大学60年史に、「附属幼稚園は、奈良女高師創設（明治42年5月1日）の際には、奈良市が女高師の構内に園舎を新築し寄付する予定であった。しかし、その後、奈良市との協議の結果、その予定を変更し、奈良市より同市東向北町にあった元奈良市立第三尋常小学校朝日分教場の建物を寄付し、その敷地は、右建物を附属幼稚園舎として使用する限り、無償で奈良女高師に貸与することとなった」とある。同年11月6日発送の文部大臣への開申案<sup>31</sup>に、「本校附属幼稚園本年九月開園可致豫ニ候処修繕工事遅延ノ為本月一日保育開始致候条此段及び開申候也」とあるように、奈良女高師附属幼稚園は、大正元年11月1日開園し、幼児保育を開始している。

職員構成は、主事雀部顕宜、首席保母大倉ハナ、保母3人（源暢子・杉山萬亀・杉山久）である。雀部顕宜<sup>41</sup>は、大阪府士族として明治5（1872）年4月2日に岡山市に生まれ、明治30年に東京帝大文科哲学科を卒業している（英語科・倫理科・修身科等免許状取得）。明治33年に28歳の小壮教授として東京女子高等師範学校教授として迎えられ、8年後、明治41年に心理学・教育学の研究のため、文部省からの命令で米、英、独に3年余り留学し、帰国後、幼児教育指導のため明治45年4月に奈良女高師に着任し、同年6月から大正3年8月まで主事を務めている<sup>51</sup>。主席保母大蔵ハナ<sup>61</sup>は、大阪市立御津幼稚園保母兼園長として勤務後、明治45年6月に、奈良女高師保母として着任して

いる。源暢子は、明治45年7月に、附属幼稚園保母心得申付として着任し、杉山萬亀も、明治45年8月に、附属幼稚園保母心得申付として着任している。杉山久は、大正元年11月に、附属幼稚園保母見習申付として着任している。

明治45年6月25日に、文部大臣宛に附属幼稚園規則<sup>71</sup>についての伺案が発送され、同年7月6日に、附属幼稚園規則制定を許可されている。当初の規則は、以下のとおりである。

第一條 奈良女高師附属幼稚園ハ幼児ニ適当ナル保育ヲ施シテ其ノ方法ノ研究ニ資シ且本校生徒ヲシテ之ヲ實習セシムル所トス

第二條 附属幼稚園ノ保育課目ハ遊戯、唱歌、談話、手技トス

第三條 幼児ノ年齢ハ大約満四歳ヨリ小学校ニ就学スルマデトス

第四條 定員ハ凡ソ百二十名トス

第五條 一箇年ヲ分チテ三学期トス

第一期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第六條 保育ノ時数ハ毎週二十三時トス但シ夏季休業ノ三週間以内ハ十五時迄減少スルヘアルヘシ

第七條 休業ハ左ノ如シ 祝日大祭日 皇后陛下御誕辰 学校記念日 春日祭 春日若宮祭 日曜日 春季休業三月二十五日ヨリ三月三十一日マデ 夏季休業七月二十一日ヨリ九月十日マデ 冬季休養十二月二十五ヨリ翌年一月七日マデ

第八條 入園期ハ毎年四月トス但シ缺員アルトキハ臨時ニ入園ヲ許可スコトアルヘシ

第十條 保育料ハ幼児一人ニ付一箇月金八捨錢トス 但二人以上同一家族ヨリ入園スル戌ハ一人ハ全額其他ハ半額トス 定時若シクハ臨時ノ休業全月ニ互ルトキハ保育料ヲ徴収セズ缺席全月ニ互レル幼児ノ保育料モ亦之ニ準ス

（第九條、第十一條～第十五條は省略）

さらに、開申案に、「追テ入園ヲ許可シタル幼児数男三十七人女三十五人ニ有之候条此段申添候也」と申し添えられている。うなるの園生創刊

号<sup>9)</sup>に「大正2年3月 保育終了幼児数 男15人女14人」と記され、家庭訪問録(大正2年9月)に明治39年7月生まれの男児が途中退園していることから、1年保育男児16人女児14人、2年保育男児21人女児21人が、入園したと考えられる。日誌の3/5の実際欄に、「二組合併シテ雛祭りノ歌第一ノウタヲ教ヘ終リタリ餘時ヲ以テ・・・年長児ノミ・・・年少児ハ・・・」とあることから、組数は2組で、年長組と年中組に分かれていたと考えられる<sup>9)</sup>。

2. 保育の内容

		大正 元年 自十一月 廿六日 至 月 日	
		省部	
題目	豫定	實際	
唱歌	及既習ノ歌ノ復習	ノ歌ノ司ノ年長児ノ歌ヘ	
	方法 ノ歌ノ而不完全ナレハ	ヲ聞キ學工歌曲ヲ誤レル	
	範唱ヲ多クシテソレヲ名聲唱	モウリソレガ夫修正ニ困難セ	
	ス其他ノ歌ニ合唱ノ獨唱	リ既習ノ歌ノ可ナリヨリ記憶	
遊戯	業方法ニヨリ練習セントス	シ居リカガ喜ビテ歌ヒタリ	
		凡テ曲ヲ誤ルモ、舞臺ノ練習	
	行進練習ノ及遊	足ヲサトル等ナレハ、幼稚ヲシテ	
	場所取與	登聲ノモリス、只樂曲ニ合シテ	
	方法、年長少幼見ノ合併シテ	拍キセシメタテ練習ヲナシタ	
	或ハ年長又ハ年少ト交互ニ	リ	
	行進ヲ練習ス此際年長	遊戯	
	見ノ歌ノ有無ニヨリ行進	舞臺ノカキシキヲ行進ニ掛	
	ニ新ニ教ヘ後合併シテ	ナリシモノモアリシガ、歌ノ有無	
	及場所取與遊ヒシラ	ニヨリ行進ハ可ナリ車ノリ特	
ス	間ノ都合ニヨリ場所取與遊		
摺方	肩掛	ヒハ中止シタリ	
	用具 青色(男)綠色(女)	肩掛ノ摺シ方、イト各男ニテ	
	ノ内ヲ摺掛紙及鉄	知見ノカ、通シタリケン妻ヒテ	
	方法、次第ニ空ニ向ヒ肩掛	シテナレタリ、鉄ヲ以テ周回ノ	
	ノ必要アラント、右トコロヨ	装飾ヲ剪レ、ゴトハ、右ノナレハ	
	リ問答ヲナレカ見ラシ	ニ分ニサト、巾着サトニサト	
	ヲ其形ヲ想像セシ、模範	ノ剪リ居タリ、巾着ノ形ニ	
	アラハコレヲ示シテ摺シ方及	知見ハ、右ノナレハ、剪リ居タリ	
周囲ノ装飾ノ剪リ方等ヲ	ザル、知見ハ、右ノナレハ、剪リ居タリ		
知ラシム			

図1 日誌原本

日誌は、B5版の大きさで、横の罫線入りの用紙に、一日ごとに題目・予定・実際の欄に区分して、万年筆で記されている。そして、上段には、年月日が記載され、その横に当時の主事(省部)の印が押されている(図1参照)。

日々の日誌には、題目欄に、躰方と保育事項

(保育4課目に関する題目)が書き並べられ、それぞれの予定と実際のみが書かれている。躰方については、開園11月1日(金)から11月22日(金)までは、毎日、予定欄・実際欄に詳細に書かれているが、以後は、大正2年3月までその記載はなく、選択された保育4課目の内容についての予定と実際のみが書かれている。また、11月1日の保育開始ノ式後、11月2日(土)から11月8日(金)までの題目には、躰方と保育4課目のうちの1課目のみが記されており<sup>10)</sup>、11月11日の弁当開始以後は、月曜日から金曜日までは3課目、土曜日は2課目のみが記されている。したがって、月曜日から金曜日までの弁当ありの日は、保育4課目のうちの3課目を中心に、土曜日の午前中保育(弁当なし)では、保育4課目のうちの2課目を中心に保育が行われていたと考えられる。

このことから、奈良女高師附属幼稚園の保育の実際は、入園当初は躰方に重きをおきながら、保育4課目を中心に保育されていた様子がうかがわれる。

大正元年組保育日誌を、日を追って保育題材に視点をあてて読み取っていくと、表1のようになる。躰方及び各課目の内容について、具体的に考察する。

1) 躰方

開園当初の11月1日から22日までのみに記載されている躰方の具体的な内容は、次のとおりである。

「下駄箱ト傘置ノ位置ト入レ方及置キ方・帽子掛ノ掛ケ方、前日ノ確認・手洗場ノ位置ト注意・点呼ノ返事ノ仕方・鈴ノ合図、前日各項反復・朝礼并ニ帰礼及擔任保母姓及砂遊び後ノ手洗、前日各項確認・朝礼脱帽注意・鼻紙手拭用意、鼻紙手拭検査・毎朝ノ顔洗イト口漱ギ注意・目ヤニ手指清潔注意、朝飯急ガザル注意、鼻汁の取り方、前回事項反復・腰掛ノ始末ノ方法、自他の名称ノ呼び方・辨当ノ整頓、池ノ棚・廊下手スリ登ル危険注意、イッテマイリマス・只今、共同玩具ノ取扱ヒ方・自由遊戯ノ注意、幼稚園ノ植木棚ノ花及花壇ノ花ミダリニ折リ取ラヌ注意・公園等ノ花折リ取ラヌ注意、幼稚園ノ帰途他家無断立チヨリ又ハ

表1 大正元年度保育事項（2年保育一年少組）

月	保育事項（遊）は遊戯、（唱）は唱歌、（談）は談話、（手）は手技の略
11月	<p>保育開始ノ式、下駄箱ト傘置ノ位置ト入レ方及置キ方・帽子掛ノ掛ケ方（躰方）、前日ノ確認・手洗場ノ位置ト注意・点呼ノ返事ノ仕方・鈴ノ合図（躰方）、日の丸（手・繋ギ方）、前日各項反復・朝礼并ニ帰礼及擔任保母姓及砂遊ビ後ノ手洗（躰方）、黒鉛筆自由画（手・画キ方）、前日各項確認・朝礼脱帽注意・鼻紙手拭用意（躰方）、自由貝排べ（手・排べ方）、鼻紙手拭検査・毎朝ノ顔洗イト口滌ギ注意・目ヤニ手指清潔注意（躰方）、第一積木自由（手・積ミ方）、朝飯急ガザル注意（躰方）、楓（手・貼リ方）、鼻汁ノ取り方（躰方）、第一積木五重ノ塔（手・積ミ方）、前回事項反復・腰掛ノ始末ノ方法（躰方）、赤十字ノ旗（手・繋ギ方）、君ガ代・楓・菊（唱歌）、自他の名称ノ呼ビ方・辨当ノ整頓（躰方）、色鉛筆自由画（手・画キ方）、行進練習・豆囊送り（遊）、池ノ棚・廊下手スリ登ル危険注意（躰方）、桃太郎ノ話（談）、桃太郎ニ猿ノ鑿排べ（手・排べ方）、イッテマイリマス・只今（躰方）、五重ノ塔復習及自由積ミ方（手・積ミ方）、船（手・貼リ方）、共同玩具ノ取扱ヒ方・自由遊戯ノ注意（躰方）、桃太郎ノ話ツヅキ（談）、1・2組合併遊戯（遊）、幼稚園ノ植木棚ノ花及花壇ノ花ミダリニ折リ取ラヌ注意・公園等ノ花折リ取ラヌ注意（躰方）、第一積木家（手・積ミ方）、扇子（手・摺ミ方）、幼稚園ノ帰途他家無断立チヨリ又ハ飲食店頭ノ禁止・外出ノ際行先ヲ父母ニ告ゲ晝食時帰宅ノ注意（躰方）、弓（手・繋ギ方）、菊・桃太郎・君ガ代（唱）、途中長上ニ對スル礼（躰方）、色鉛筆三笠山ニ樹木画（手・画キ方）、行進練習・毬送り（遊）、早寝早起キ（躰方）、各自知ル話・活動寫眞ノ話等自由ニ話ス（談）、幼稚園ノ子供（手・排べ方）、猥リニ缺席セザルコト（躰方）、第一積木家復習及自由（手・積ミ方）、紋形（手・貼リ方）、些細ナコトニ泣カヌコト・動物ヲ恐レヌコト（躰方）、雁（手・摺ミ方）、1組共同遊戯（遊）、郊外保育、花咲爺サンノ話（談）、復習第一積木汽車（手・積ミ方）、自由遊戯（遊）、雁及既習ノ歌ノ復習（唱）、行進練習・雁遊戯（遊）、肩掛（手・摺ミ方）、既習練習・鳩・雲雀（唱）、菊ノ枝（手・貼リ方）、雁ト其家 箸・1/4鑿・板排べ（手・排べ方）、花咲爺サンノ話ツヅキ（談）、第一積木花瓶（手・積ミ方）、花咲爺サンノ話ノ所感画（手・画キ方）、帰リノ歌・既習練習（唱）、自由ノ工夫排べ方（手・排べ方）、行進・開イタ・桃太郎（遊）、團子ツナギ（手・豆細工繋ギ方）、唱歌復習（唱）</p>
12月	<p>入營ノ話（談）、第二積木自由積ミ方（手・積ミ方）、軍器ノ種々（手・画キ方）、日本男子（唱）、兵士三人（手・貼リ方）、雁・桃太郎玉送り（遊）、日本男子ツヅキ（唱）、歩哨ト哨舎（手・排べ方）、富士山ニ雲（手・摺ミ方）、文福茶釜ノ話（談）、第二積木机ト本箱（手・積ミ方）、茶釜ト扇子（手・画キ方）、既習練習（唱）、歩哨ト哨舎復習（手・排べ方）、日本男子・既習遊戯雁・開イタ・桃太郎・豆囊送り（室内遊）、既習練習（唱）、喇叭（手・豆細工）、花壇散水・花壇（談）、第二積木机ト本箱復習・自由積ミ方（手・積ミ方）、植木鉢ニ植物（手・画キ方）、猫ノ歌（唱）、傘ノ開キタル形（手・摺ミ方）、日本男児・雁・汽車・場所取鬼（遊）、手毬ノ歌（唱）、三重ノ塔（手・貼リ方）、自由排べ方（手・排べ方）、半太ト小人ノ話（談）、五重ノ塔（手・積ミ方）、自由画キ方（手・画キ方）、手毬ト猫ノ歌ツヅキ（唱）、電車（手・排べ方）、手毬・タタキ鬼（遊）、歌（前日に同じ・唱）、ヤジロベー（手・豆細工）、正直ナキコリ（談）、祭提灯（手・貼リ方）、鳥居（手・画キ方）、正月ヲ待ツ歌（唱）、雀（手・摺ミ方）、電車復習自由（手・排べ方）、火事ノ繪トキ（談）、電車（手・積ミ方）、自由画キ方（手・画キ方）、正月ヲ待ツ歌ツヅキ（唱）、羽子板ト毬ニ羽根（手・排べ方）、二組合併遊戯（遊）、既習練習（唱）、提灯（手・豆細工）、餅搗奴ノ話（談）、電車復習・自由（手・積ミ方）、山ニ隧道・レール（手・画キ方）、既習練習（唱）、提灯二個（手・貼リ方）、毬送り・轉回行進・手毬及正月ヲ待ツ歌遊戯（遊）、</p>
1月	<p>正月ノ歌并ニ君ガ代（唱）、屏風（手・摺ミ方）、家族打集リテ新年ヲ祝セル図解（談）、神社（手・積ミ方）、玩具ノイロゝ（手・画キ方）、大寒小寒（唱）、鯛ト釣竿（手・排べ方）、大毬送り其他唱歌適用遊戯ノ復習（遊）、大寒小寒ツヅキ（唱）、手拭カケ（手・豆細工）、藪入ノ話（談）、恵比寿神社復習（手・積ミ方）、自由画キ方（手・画キ方）、大寒小寒ツヅキ（唱）、折敷ニ鏡餅（手・貼リ方）、二組合併遊戯（遊）、大寒小寒ノ練習（唱）、ト書物（手・摺ミ方）、日ノ出ニ鶴（手・排べ方）、福ノ神ト太郎ト次郎（談）、燈籠（手・積ミ方）、燈籠（手・画キ方）、既習練習（唱）、自由排べ方（手・排べ方）、大毬送り・行</p>

	<p>進練習・汽車(遊)、前日全ジ(唱)、飾り紐(手・繋ギ方)鼠ト鏡餅(談)、三寶ニ鏡餅(手・排べ方)、自由画キ方(手・画キ方)、梅ノ歌(唱)、獨樂ニ毬(手・貼り方)、大毬送り・日本男児・桃太郎(遊)、梅ノ歌ツツキ(唱)、屏風ト折本ノ復習(手・摺ミ方)、馬ノ復習及自由積ミ方(手・積ミ方)、海老ノ腰(談)、三寶ニ鏡餅復習(手・排べ方)、三寶ニ鏡餅復ノ見取図(手・画キ方)、梅ノ歌ツツキ(唱)、燈籠(手・積ミ方)、手繋回轉行進(遊)、梅ノ歌ツツキ(唱)、既習ノ復習(談)、ラッパ(手・豆細工)、既習談話ノ復習(談)、紋形(手・排べ方)、火鉢ヲ基本トシテコレニ関係セルモノ画(手・画キ方)、梅ノ歌ツツキ(唱)、紋形(手・貼り方)、全児合併遊戯(遊)、梅ノ歌ツツキ(唱)、既習ノ復習(手・摺ミ方)、燈籠(手・積ミ方)、談話練習(談)、紋形ノ復習及應用(手・排べ方)、梅ノ枝ヲ基本トシテ其周囲ニ幼児随意画(手・画キ方)、梅ノ歌復習(唱)、第二積木自由積ミ方(手・積ミ方)、手繋回轉行進・開イタ場所取り鬼(遊)</p>
<p>2 月</p>	<p>ロネード・兎ト亀及金太郎ノ遊ビ・行梅ノ歌復習(唱)、花籠(手・豆細工)、節分の話(談)、宮(手・積ミ方)、鶏・鯛・机・リンゴ・櫻(手・画キ方)、雪ノ歌(唱)、梅ノ枝ニ鶯(手・貼り方)、ブ進練習・走り方練習(遊)、雪ノ歌ツツキ・金太郎歌詞矯正(唱)、座布團(手・摺ミ方)、柵(手・排べ方)、鬼丸(談)、神社ノ復習(手・積ミ方)、雪ノ歌・梅ノ歌復習(唱)、ダルマニ雪見燈籠(手・排べ方)、場所取鬼・雪・名當テノ遊ビ・手繋回轉行進・開イタ(遊)、既習ノ歌ノ復習(唱)、梅花ノ一枝(手・豆細工)、蟹ノ横這ヒノ話(談)、寺の門(手・積ミ方)、蟹ノ話にツキテ鉛筆画(手・画キ方)、遊ビ事(唱)、遊ビ事・幼児ノ好ミタル既習復習(遊)、ダルマニ燈籠(手・貼り方)、梅ノ枝(手・排べ方)、蟹崎ト鶴崎(談)、寺ノ門復習(手・積ミ方)、手繋回轉行進・開ヒタ・雪・ダルマ送り・翁送り(遊)、遊ビ事ツツキ既習ノ歌復習(唱)、蟹ト亀(手・排べ方)、二組合併(遊)、自由画キ方(手・画キ方)、既習ノ歌復習(唱)、風車ツツキ(手・繋ギ方)、金太郎ノ話(談)、自由積ミ方(手・積ミ方)、金太郎談話ノ所感(手・画キ方)、遊ビ事ツツキ(唱)、鉄入れ(手・摺ミ方)、二組合併(遊)、遊ビ事・金太郎・兎ト亀ノ復習(唱)、紋形ノ工夫(手・排べ方)、紋形ノ工夫(手・貼り方)、金太郎ノ話ツツキ(談)、金太郎ノ家工夫(手・積ミ方)、色鉛筆ト方形野紙(手・画キ方)、椿ノ歌(唱)、自由ノ工夫(手・排べ方)、遊ビ事遊戯・走り競べ(遊)、椿ノ歌ツツキ(唱)、金太郎ノ軍配團扇(手・豆細工)、椿・雛祭り(唱)、汽車(手・積ミ方)、方形野紙色ドラシム(手・画キ方)、太郎ノ夢(談)、汽車(手・貼り方)、プロネード・椿(遊)、椿・終了式ノ歌(唱)、鉄入れ・座布團復習・自由摺ミ方(手・摺ミ方)、デندن太鼓ト刺叭(手・排べ方)、終了式ノ歌・幼児好メル歌及椿(唱)、排べ方復習(手・排べ方)、玩具ノイロト(手・画キ方)、うそどりノ話(談)、汽車復習(手・積ミ方)、椿・名當テ・走り競べ(遊)</p>
<p>3 月</p>	<p>雛祭りツツキ(唱)、コマ・ムチ・クワ(手・豆細工)、雛祭りノ歌・修了式ノ歌ツツク(唱)、雛壇(手・積ミ方)、雛飾リ所感(手・画キ方)、舌切雀ノ話(談)、電車(手・貼り方)、二組合併遊戯(遊)、二組合併雛祭りノ歌・既習復習(唱)、鳩(手・摺ミ方)、紋形(手・排べ方)、修了式ノ歌練習・既習復習(唱)、自由排べ方(手・排べ方)、立雛(手・画キ方)、舌切雀ノ話ノ復習(談)、雛飾リノ御殿ノ工夫(手・積ミ方)、鳩・日本男児・走行進・椿・不倒翁送り(遊)、總練習(唱)、糸ツナギ(手・繋ギ方)、一寸法師(談)、自由積ミ方(手・積ミ方)、自由画キ方(手・画キ方)、雛祭り・保育修了式及君ガ代復習(唱)、紋型(手・貼り方)、プロネード・椿・押車競争・大毬送り競争(遊)、一寸法師・既習ノ歌復習(唱)、襦袢(手・摺ミ方)、一寸法師ノ航海(手・排べ方)、一寸法師ツツキ(談)、宰相殿ノ家ノ門(手・積ミ方)、輪クグリ・場所トリ(遊)、一寸法師ツツキ(唱)、鏡(手・豆細工)、一寸法師復演(談)、宰相殿ノ家ノ門ノ復習(手・積ミ方)、一寸法師ノ話ノ所感(手・画キ方)、</p>

飲食店頭ノ禁止・外出ノ際行先ヲ父母ニ告ゲ晝食時帰宅ノ注意、途中長上ニ對スル礼、早寝早起キ、猥リニ缺席セザルコト、些細ナコトニ泣カヌコト・動物ヲ恐レヌコト、本週項目大要反復」。

実際にどのように指導されていたかについてみると、例えば、11/2 豫定「前日指導セシ各項ヲ実行セルヤ否ヤヲ試ミ次ニ下ノ項ヲ実施ニ或ハ圖解シテ教示ス。イ、手洗場ノ位置コレニ對スル注意、ロ、自己ノ姓名ヲ呼バレシトキノ返事ノ仕方、ハ、鈴ノ音ト共ニ急ギ自己ノ保育室ニ入ルベキコト」とある。また、11/8 豫定「前回事項ノ反復ヲナス次ニ下ノ各項ニツキ話ス。イ、鼻汁ヲ出サヌコト。ロ、鼻汁ヲ出ストキハ直ニ紙ニテ拭ヒ決シテ衣服ノ袖等ニテ拭ハヌコト。ハ、鼻紙ノ用ヲナシタル後ハコレヲ屑籠ニ庭園アリテハ所定ノ紙屑籠ニ捨ツルコト」とある。

このことから、入園当初に、基本的な生活習慣に関する内容を、内容によっては、ある時は図解しながら、またある時は実際に子どもにさせてみながら、またある時はゆっくりと語り聞かせて、教師が中心となって、きめ細やかな指導が行われていたことがうかがわれる。

## 2) 保育 4 課目

### ①保育時間

2月は、11月の開園から3ヶ月後であり、冬休み明けから約1ヶ月後ということもあって、子ども達も、園も、比較的落ち着いた頃ではないかと思われる。そこで、2月を中心にして、具体的に考察することにする。

### 遊戯

例えば、2月では、「プロネード・兎ト亀・金太郎ノ遊ビ・行進練習・走り方練習、場所取鬼・雪・名當テノ遊ビ・手繋回轉行進・開イタ、遊ビ事・幼児ノ好ミタル既習復習、手繋回轉行進・開ヒタ(ママ)・雪・ダルマ送り・翁送り、二組合併、二組合併、遊ビ事遊戯・走り競べ、プロネード・椿、椿・名當テ・走り競べ」である。

このことから、遊戯は、プロネード・兎ト亀・金太郎ノ遊ビ・雪・開イタ・遊ビ事・椿等

の唱歌に合わせて体を動かす唱歌遊戯を中心とした身体表現的な活動や、プロネード、行進練習・走り方練習・手繋回轉行進等の練習を重んじた身体運動的な活動や、場所取鬼・名當テノ遊ビ・ダルマ送り・翁送り・走り競べ等の集団遊戯的な活動が、行われていたことがうかがわれる。そして、唱歌遊戯からは、唱歌と遊戯の課目が、複合的に取り扱われていた様子がうかがえる。さらに、2/4 豫定「・・・、金太郎、・・・(遊)。方法、・・・兎ト亀及金太郎ヲ演ゼシメ・・・」実際「・・・兎ト亀及金太郎ノ遊ハ己ニ資レルモ多ク愉快氣ニ演ジタリシモ金太郎ノ歌詞ヲ誤ルモノ多カリシガ、一時ニハ矯正シガタケレバ次第ニコレヲ矯正セントス」とあり、2/7 豫定「雪ノ唱歌ヲ適用シタル遊戯ヲ教示シ・・・」とあることから、唱歌遊戯は、子どもが歌いながら自分で振りを考えて踊るものと、保育者が唱歌に合わせて振りを踊って見せて教えるものが、あったと考えられる。また、二組合併とあることから、年長組と合同で遊戯が行われていた様子もうかがわれるが、どのようなことが行われていたかについては、予定・実際欄ともに、「杉山保姆の業ニヨル」と記載されているのみで、具体的なことはわからない。

### 唱歌

例えば、2月では、「梅ノ歌復習、雪ノ歌、雪ノ歌ツヅキ・金太郎歌詞矯正、雪ノ歌・梅ノ歌復習、既習ノ歌ノ復習、遊ビ事、遊ビ事ツヅキ既習ノ歌復習、既習ノ歌復習、遊ビ事ツヅキ、遊ビ事・金太郎・兎ト亀ノ復習、椿ノ歌、椿ノ歌ツヅキ、椿・雛祭り、終了式ノ歌、椿・終了式ノ歌、幼児好メル歌及椿」である。

このことから、題材としては、季節や行事を考慮して選択されていたことがうかがわれる。そして、2/4 豫定「雪フリノ景色ヲ画ケル圖ニヨリテ其歌ノ半バヲ教示ス」とあり、2/5 豫定「子供ガ雪遊ビヲナセル圖ヲ示シ範唱シツツ模唱セシメテ終リマデヲ教示シ其間既習ノ歌ヲモ復習シテ變ヲ附ス」とあり、2/7 「雪ノ歌全部終リタレバ本日ハコレヲ充分練習シテ其強弱ヲモツケシメ、既習ノ梅ノ歌ヲモ復習ス」とあることから、新しい歌を少しずつ日を追って、図を示

して、保母が範唱しながら、子どもに模唱させて教え、子どもが、歌えるようになると、強弱もつけて歌える工夫をしている様子もうかがわれる。そして、一日に一歌を指導するのではなくて、既習の歌もいっしょに練習しながら、歌っていた様子もうかがわれる。2/8豫定「既習ノ歌ノ復習、方法、圖ニヨリ或時ハ話ニヨリテ既習ノ歌ヲ獨唱、連唱、合唱ニヨリテ復習ス」とあることから、教示の仕方(図・談話)や歌い方(独唱・連唱・合唱)にも、工夫して行われていたことがうかがわれる。

#### 談話

例えば、2月では「節分の話、鬼丸、蟹ノ横這ヒノ話オ伽百和、蟹崎ト鶴崎、金太郎ノ話、金太郎ノ話ツヅキ、太郎ノ夢、うそどりノ話」である。このことから、鬼丸、蟹ノ横這ヒノ話オ伽百和、蟹崎ト鶴崎、金太郎ノ話等の物語(お伽話)、節分の話等についての説明的な話といった内容が、題材として選択されていた様子もうかがわれる。そして、2/17豫定「金太郎用具、金太郎ガ山中ニテ獸類ヲ相手ニ遊ベル圖及大木ヲ倒シテ橋トナセル圖。方法、・・唱歌ヲ教示セシ際ニ聞キ居レドモ談話トシテハ未ダ聞カザルヲ以テ幼児知レルトコロハ幼児ニ述ベシメ未知ノトコロハ圖ヲ利用シテ充分委シリ話ス。注意、話長キヲ以テコレヲ二回ニナシ・・。目的、元気ヨリアルベキコトヲ奨励ス」とあるように、物語の談話では、図を利用して語り聞かせをしていた様子もうかがえる。また、それぞれの物語を語り聞かせる際は、徳目を定めて、物語を通して訓育されていた様子もうかがえる。そして、長い話は、分けて語り聞かされていた様子もうかがえる。2/3豫定「節分の話方法、豆・枅・及家族打集ヒ豆ニテ年ヲトレル圖ニヨリテ下ノ各項ヲ話ス1.本日ハ年越トテ年ヲ一ツ重ヌル日ナルコト 2.・ 3.・ 4.・ 注意、幼児ノ経験セル事項ハ充分發表セシム」とあり、實際「豆及枅ハ実物ヲ用意セシガ圖ハコレヲ省キタリコレ餘リ舊曆ヲ重ンゼザラシメニガ為ニシテ幼児ノ経験談ヲ利用シテ節分ニ関スル一通リノ話ノミヲナシ置キタリ・・」とあるように、説明的な話においても、

図や話に関する物を利用している様子もうかがえる。また、説明的談話においても、物語においても、さらに既習談話ノ復習(1月)や談話練習(1月)からも、子どもの発表力を養成したり、保母が子どもの理解力や記憶力を知るために、復習されている様子もうかがえる。

#### 手技

例えば、2月では、「花籠(豆細工)、宮(積ミ方)、鶏・鯛・机・リンゴ・櫻(画キ方)、梅ノ枝ニ鶯(貼り方)、座布團(摺ミ方)、枅(排ベ方)、神社ノ復習(積ミ方)、ダルマニ雪見燈籠(排ベ方)、梅花ノ一枝(豆細工)、寺ノ門(積ミ方)、蟹ノ話にツキテ鉛筆画(画キ方)、ダルマニ燈籠(貼り方)、梅ノ枝(排ベ方)、寺ノ門復習(積ミ方)、蟹ト亀(排ベ方)、自由画キ方(画キ方)、風車ツヅキ(繋ギ方)、自由積ミ方(積ミ方)、金太郎談話ノ所感(画キ方)、鋏入れ(摺ミ方)、紋形ノ工夫(排ベ方)、紋形ノ工夫(貼り方)、金太郎ノ家工夫(積ミ方)、色鉛筆ト方形罫紙(画キ方)、自由ノ工夫(排ベ方)、金太郎ノ軍配團扇(豆細工)、汽車(積ミ方)、方形罫紙色ドラシム(画キ方)、汽車(貼り方)、鋏入レ・座布團復習・自由摺ミ方(摺ミ方)、デンデン太鼓ト刺叭(排ベ方)、排ベ方復習(排ベ方)、玩具ノイロ・(画キ方)、汽車復習(積ミ方)」である。

このことから、遊戯・唱歌・談話の3課目に比べて手技の題材が非常に多いことがうかがえる。豆細工・積ミ方・画キ方・貼り方・摺ミ方・排ベ方・繋ギ方からフレーベルの恩物系列的な手技の内容がうかがえる。そして、梅ノ枝ニ鶯(貼り方)・梅花ノ一枝(豆細工)・梅ノ枝(排ベ方)や、汽車(積ミ方)・汽車(貼り方)のように、同じ題材で、手技の内容が違うという複合的な取り扱いが見られる。寺ノ門(積ミ方)・寺ノ門復習(積ミ方)やデンデン太鼓ト刺叭(排ベ方)、排ベ方復習(排ベ方)等から練習的な指導の様子もうかがえるが、2/13實際「寺ノ門復習(積ミ方) 寺ノ門ハ全兒ヨク記憶ナシ居テ直ニ積ミタクヨリテ紙人形ヲ貸シ與ヘバ玩バシメタル後自由ニツマシメシニ種々ノモノヲ工夫シテ相當ニ活動ナシ居タ

り」とあり、2/26豫定「排べ方復習、材料、前日ノ材料ニ加フルニ具十數個ヲ以テス。方法、先ヅ前日ノ形ヲ排ベシメタル後各児ニ具ヲ配布シコレヲモ材料ノ中ニ加ヘテ自由ニ工夫セシム但或ベリ(ママ)玩具ヲ工夫スベキ様注意ヲ與フ」とあることから、前回の活動を復習しながら、自由感をもたせながらの発展的な活動の展開の様子もうかがえる。また、自由画キ方、自由積ミ方(積ミ方)、自由ノ工夫(排べ方)、自由摺ミ方(摺ミ方)、色鉛筆ト方形罫紙画キ方(方形罫紙色ドラシム画キ方)、紋形ノ工夫(排べ方)、紋形ノ工夫(貼り方)、金太郎ノ家工夫(積ミ方)、金太郎談話ノ所感(画キ方)から、題材・素材を細かく制限・設定しながらも、自由な表現活動を尊重している様子もうかがわれる。

以上のことから、奈良女高師附属幼稚園の保育の実際は、入園(開園)当初の11月は躰に重きをおきながら躰方と保育4課目を中心に、12月以降は保育4課目を中心に各課目の個々の事項の充実に重点をおきながら、教師が中心となって画一的に指導されていた様子うかがえる。特に保育4課目の中でも手技に関する事項が多く、繋ギ方・画キ方・排べ方・積ミ方・貼り方・摺ミ方・豆細工といった手技の細分化された各活動が他の各課目(遊戯・唱歌・談話)と同じように重視されていたことがうかがえるとともに、フレーベルの恩物系列的な手技の活動の名残が感じられる。

そして、2/4金太郎ノ遊ビ(遊)、2/5金太郎歌詞矯正(唱)、2/17金太郎ノ話(談)、2/17金太郎談話ノ所感(手・画キ方)、2/19金太郎(唱)、2/20金太郎ノ話ツヅキ(談)、2/20金太郎ノ家工夫(手・積ミ方)、2/22金太郎ノ軍配團扇(手・豆細工)というように、「金太郎」という題材で、ある日は遊戯を中心に、またある日は唱歌を中心に、ある日は談話を、さらにある日は手技の画キ方を、ある日は手技の積ミ方をというように、一題材を3課目(遊戯・唱歌・談話)と手技の繋ギ方・画キ方・排べ方・積ミ方・貼り方・摺ミ方・豆細工の各視点からとらえて、活動している様子うかがえる。また、「桃太郎」の題材について

は、11/12桃太郎ノ話(談)から、11/12桃太郎ニ猿ノ鑲排べ(手・排べ方)、11/13船(手・貼り方)、11/13船(手・貼り方)、11/14桃太郎ノ話ツヅキ(談)、11/15第一積木家(手・積ミ方)、11/15扇子(手・摺ミ方)、11/16弓(手・繋ギ方)、11/16桃太郎(唱)、11/20第一積木家復習(手・積ミ方)、11/29桃太郎(遊)、11/30團子ツナギ豆細工(手・豆細工)、12/3桃太郎玉送り(遊)、12/6既習遊戯桃太郎(遊)、1/21桃太郎(遊)等というように、11月から翌年の1月までの3ヶ月にわたって、活動が展開されている様子うかがえる。

さらに、唱歌に合わせて体を動かす唱歌遊戯や、2/17金太郎(談)・金太郎談話の所感(手・画キ方)や、11/7水ニ楓(手・貼り方)の予定欄に「水ニ楓 材料(略)方法、湿布ノ取り扱イ方ヲ知ラシメ公園ノ楓樹ヨリ話シ始メテ材料ヲ與ヘ先ズコレヲ臺紙ノ上ニ排列セシメタル後貼付ケシム終リテ楓歌ヲ歌ヒ聞カシム」とあり、11/9君ガ代(唱)の予定欄に「君ガ代、楓、菊、等ヲ模唱シテ聞カシメ或ハ談話ニヨリテ興味ヲ添フ」とあることなどから、唱歌と遊戯、談話と手技、手技と唱歌、唱歌と談話というように、課目を複合的に取り扱って、活動を展開している様子うかがわれる。

そして、11/19各自知ル話・活動寫眞ノ話等自由ニ話ス(談)、11/25自由遊戯<sup>1)</sup>(遊)、12/2自由積ミ方(手)、12/11自由排べ方(手)、2/4・・兎ト亀及金太郎ノ遊ビ(遊)、2/27幼児好メル歌(唱)、3/10自由画キ方(手)等の事項から、教師が中心となって画一的に指導されていた様子うかがえるが、とりあげられた活動の内容に自由が尊重されていた様子うかがえる。

その他の活動として、11/22の実際欄に「本日ハ公園ヘ引率ノ約束ナレバ曇天ニモ拘ラズ幼児ハ行カンコトヲ希ヒテ何トナク落ツカザル態度アリ・・・」とあり、また「郊外保育ノタメ此豫業ハ廢シタリ」とあるように、郊外保育が行われていた様子うかがえる。また、3/5の実際欄に「・・・年少児ハ外遊ニ出シテ後・・・」とあることから、外遊びも行われていたことがうかがえるが、躰方や保育4課目のみが、日誌の題目として取り上げられていることから、外遊びは、保育

の内容として位置づけられるほどには、重要視されていなかったと考えられる。

## おわりに

奈良女高師附属幼稚園の保育の実際をまとめてみると、一年間は3学期であり、一日の流れとしては、午前中保育では保育2課目（入園当初は躰方と保育1課目）を中心に、午後までの保育では保育3課目を中心に保育が行われていたと考えられる。

保育の内容としては、入園（開園）当初の11月は、躰に重きをおきながら、躰方と保育4課目を中心に、12月以降は、保育4課目を中心に、各課目の個々の事項の充実重点をおきながら、教師が中心となって、画一的に指導されていた様子うかがえる。特に保育4課目の中でも、手技に関する事項が多く、繋ぎ方・画キ方・排べ方・積ミ方・貼り方・摺ミ方・豆細工といった手技が細分化され、各細分化された事項が、他の3課目（遊戯・唱歌・談話）と同じように、重視されていたことがうかがえる。さらに、保育4課目の複合的な取り扱いや、一題材の各課目の視点からの取り扱いや、各課目の充実をはかりながらの一連の流れがうかがえる。

明治33年東京女子高等師範学校附属幼稚園（以下、東京女高師附属幼稚園）における保育要項第三、保育の方法に、「保育の方法として当園に採用する事項を遊戯・唱歌・談話・手技とし、各事項に配当する1日中の割合は下記の如し。（1）遊嬉 凡そ3時間（2）唱歌 談話 手技 凡そ1時間」<sup>12)</sup>とあることから、東京女高師附属幼稚園では遊嬉が重視されていたのに対して、奈良女高師附属幼稚園では手技が重視され、それぞれの園では保育4課目を中心としながらも園独自の保育が行われていたことがうかがわれる。また、東京女高師附属幼稚園における同保育要項第四保育事項に「一遊嬉・・・遊嬉ハ随意遊嬉及共同遊嬉ノニニ区別ス。随意遊嬉ハ危険害悪等ヲ誘致スル恐レアルモノヲ除ク外ナルベク幼児ヲシテ任意ニ遊樂セシムルモノニシテ主トシテ自然ノ良性ヲ発達セシム。・・・」<sup>13)</sup>として、現在の自由遊びの

ような随意遊嬉を尊重しているのに対して、奈良女高師附属幼稚園では外遊びも行われていたことは記されているが、題目として取り上げられていないことから、保育の内容として位置づけられるほどには重要視されていなかったと考えられる。東京女高師附属幼稚園は、「随意遊嬉ハ・・・任意ニ遊樂セシム・・・」<sup>14)</sup>として、子どもの自由を尊重していたのに対して、奈良女高師附属幼稚園では、活動の選択の自由はなかったものの、自由積ミ方や自由排べ方のような与えられた事項の中での、子どもの自由を尊重しようという様子うかがえる。また、当時の主席保母大倉ハナが大正2年5月15日京阪神三市聯合保育會出席のため大阪市に出張した際の、奈良女高師学校長野尻精一宛の報告書<sup>15)</sup>に「・・・一、研究題 1、保育上ノ自由主義ヲ採用セラルル實驗談ヲ承リタシ・・・イ、一定ノ時間ニ一定ノ幼児數ヲ一定ノ保育室ニ入レテ一定ノ保育事項ヲ課スルモ保育ノ方法サヘ宜シキヲ得ルトキハ幼児ノ自己活動ハ充分ナシ得ルモノニシテコレ云ハユル自由主義ナラズヤ。ロ、自由ト放任トハ往々誤解セラレ易キモノナリ自由ハ保育上缺クベカラザレドモ放任ハ稍モスレバ幼児ヲ誤ルコトアリ区別セザルベカラズ。・・・」にあることから、大倉は子どもに課した保育事項の中で子どもの自己活動を尊重することが自由であると考えていたと思われる。そして、当時の保育界での自由を尊重しようという萌芽が生まれつつあることが感じられる。

今後は、次期主事の森川正雄理論と保育の実際について、さらに考察を深めるつもりである。

この研究は日本保育学会第58回大会で発表したものを、加筆修正したものである。資料を提供していただきました中島道男教授（奈良女子大学附属幼稚園園長）、麻生武教授（奈良女子大学附属幼稚園元園長）、前田正代（奈良女子大学附属幼稚園副園長）、島岡尚子（奈良女子大学附属幼稚園元副園長）に謝意を表します。

## 注および引用文献

- 1) 高月教恵：奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際（1）—昭和13年度四之組保育日

- 誌を中心に一. 新見公立短期大学紀要、24、13-23、2003
- 2) 高月教恵：奈良女子高等師範学校附属幼稚園の保育の実際 (2) 一昭和18年度四之組保育日誌を中心に一. 新見公立短期大学紀要、25、11-21、2004
- 3) 奈良女子大学校史関係資料 第151號
- 4) 『宮城県女子専門学校史』(1986宮城女専同窓会白楊会68-70)
- 5) 雀部顕宜が大正3年8月まで主事を務めた後、同年9月より森川正雄が主事として着任している。
- 6) 『うなみの園生創刊號』奈良女子高等師範学校附属幼稚園、76、大正13年11月
- 7) 「附属幼稚園ニ関スル重要書類」奈良女子大学校史関係資料
- 8) 『うなみの園生創刊號』奈良女子高等師範学校附属幼稚園、83、大正13年11月
- 9) 80年記念誌(奈良女子大学附属幼稚園)にも大正元年 組数は2組とある。
- 10) 11月9日8日(土)は、唱歌を含んで3課目が記されている。
- 11) 11/25自由遊戯は、實際欄に「・・・自然時間長クナリ此時間ヲ自由遊戯ニ變更シタリ」とあるのみで、自由遊戯の内容は記されていない。
- 12) 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社、951、昭和54年
- 13) 同上書
- 14) 同上書
- 15) 奈良女高師附属幼稚園報告書綴(奈良女子大学附属幼稚園所蔵)

**Practice of the Infant Education of the Kindergarten  
Attached to the Nara Women's Advanced Teacher-Training School (3)  
- Through the Infant Education Diaries in the Year of 1912 -**

Norie TAKATSUKI

The Department of Early Childhood Education, Niimi College, 1263-2 Nishigata Niimi, Okayama 718-8585 Japan

Summary

I considered practice of the infant education of the Kindergarten Attached to the Nara Women's Advanced Teacher-Training School through the infant education diaries in the year of 1912. I understood that the contents were the four items (play, singing, conversation, handwork). Especially, the emphasis was put on handwork among the four items. It seems that freedom (self-activity) of the children in the teaching items is emphasized.

Key Words: ways of discipline, four teaching items, handwork, freedom (self-activity)